校長室だより

きまがせ

令和６年７月２日
野田市立木間ケ瀬小学校
校　長　　松藤　有里

かけ算九九検定の様子から

新しい学年になってから３か月。「やる気みなぎる『楽しい』学校」を合言葉に、子どもたちは、様々な教育活動に意欲的に取り組んでいます。

昨年度と同様に、今年度も九九検定を６年生から順番に行いました。昨年実施したときにも感じたのですが、「３×７＝？？」「６×８＝？？」「４×７＝？？」と混乱しやすい九九は決まっている傾向があります。間違いや言い直しが多いと、全ての九九を唱えるのに、２分以上かかることもありますが、中には、すらすらと聞き取りやすく、１分を切るスピードで暗唱している子がいて感心します。

１分40秒以内に一通り唱えることができた児童は、レベルを上げ、「ばらばら九九１０問連続正解」にも挑戦しています。間違えやすい九九を１０問選んで、ランダムに出題します。式を見たら即答することを求めています。これが、なかなかの難関で、挑戦した児童の合格率が４０％に達していません。順番にゆっくり考えればできるのですが、即答するということが難しいようです。わり算の商を立てるときに、九九を始めから順番に唱えて仮の商を探すのではなく、サッとひらめくようにしたいものです。繰り返し練習することで、考えるスピードは、確実に速くなります。集中力を高めることもできます。

学校と保護者の連携の大切さ

先月、家庭教育学級で「学校と保護者の連携」についてお話させていただく機会がありました。その時にお話させていただいた内容の一部を紹介します。

学校と家庭が連携することがなぜ必要なのか、を考えたときに、私が強く思うのは、「子どもの自己肯定感を高めるために」学校と家庭が連携することが必要なのだということです。自己肯定感が高まると、学習意欲も高まり、人間関係もよくなり、生きていく上で必要な力が育つことは確かです。そもそも自己肯定感とは何でしょうか。人によってさまざまな定義があると思いますが、簡単に言うと、「ありのままの自分を好きと思う気持ち」です。これがあることで自分を信頼し、「自分ならやれる、大丈夫」と思うことができるようになります。やる気をもって何かに取り組んだり挑戦したりして生きていく大切なベースになるものと言えます。自分を信じて力を発揮していくには、自分に対してどのような気持ちをもっているかが影響します。

（～～～略～～～）

脳科学者の研究によると、自己肯定感は、大人になってからでも、いくらでも向上させていくことができるそうです。できない自分も自分の一部として受け入れていくことから意識していくとよいそうです。自分を知っているということは、それだけで大きな一歩だということです。

子どもたちの成長や幸せを願っているという点で、学校の職員も保護者も同じ方向を向いています。今日から始まった個人面談を通して、学校と家庭の連携をさらに深めていくことができればと思います。